

勉強はドキドキしない人生のために

いよいよ、令和6年度最初の定期テストを迎えます。

今年度初めの全校オリエンテーション(令和6年4月8日実施)で、学習担当の佐藤先生から、学習への取組について全校に話がありました。

中間テストを前に、もう一度振り返ってみましょう。

<何のために勉強するの？>

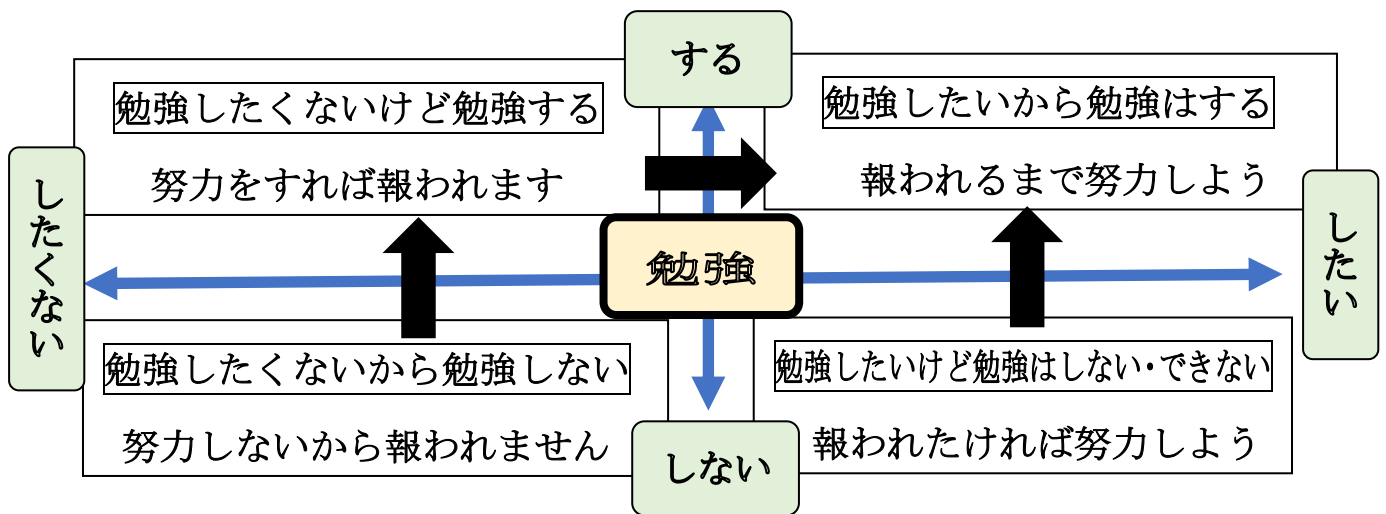
将来の夢？ 進学？ 良い点を取りたい？ 楽しいから？
やらなきゃいけないから？ やれと言われるから？
やらないと親に怒られるから？ みんながやっているから？

<勉強する理由として考えられるのは？>

学力向上	勉強することで学力が向上し、将来の進路やキャリアの選択肢が広がります。
高校進学	中学校の学習は高校進学の準備の一部です。希望する高校や進路に進むための基盤を築きます。
自己成長	新しい知識やスキルを身につけることで、自己肯定感や自己有用感、自信を高めることができます。
将来の成功	勉強することは、将来に向けた準備です。学業が充実していれば、大学や就職などの選択肢が広がります。
社会貢献	他人や社会への貢献に価値を見出す人は、自分の学んだスキルを磨くために勉強することは必要不可欠です。

<勉強へのスタンスの類型>

勉強したいの？したくないの？するの？しないの？



<結論>

- ・勉強への姿勢が、これからの生き方に直結
- ・勉強するのは、だれのためでもなく自分のため
- ・努力できるかどうか、自分次第

- ➡
- ・嫌いでも、やりたくなくとも、とにかくやってみる。
 - ・勉強はしないよりしておいた方がよい。
 - ・勉強をやって損することは絶対はない。

昨年度発行の本校長だより No.9(「君は何のために勉強するの?」)の繰り返しになりますが、私はこう考えます。

「なぜ勉強するの?」と理由を聞かれて、正当なきちんと勉強する理由や意義を見出せるようであれば、黙っていても勉強をすることでしょう。しかし、まだまだ現実社会での経験値がない中学生にとって、現段階では、たいそうな理由などなくてもいいと思います。

例えば、「テストでいい点をとると気分がいい」「テストで〇〇ちゃんに負けたくない」など、自分なりの明確なモチベーションのネタがあればよしとしたいと思うのです。

さて、どうして子どもたちはなかなか勉強に前向きにならないのでしょうか。他に楽しいことや楽なことがあるからでしょうか。いや、そもそも人間は決して勉強をすることが嫌いではないはず。日々、何かしらの知識や技能を得て成長しているのですから。でなければ生きていけません。では何がネックになっているのでしょうか。

おそらく「テスト」の存在です。もっというなら「テスト」という言葉の響きです。私も「テスト」を受けるのは、今も昔も大嫌い
です。

なぜなら、「テスト」は、必ず誰かに評価されている、時には順番
をつけられたり優越をつけられたりするという不安を増幅するから
です。もし学校や世の中から「テスト」の存在がなくなれば、かな
り気楽に伸び伸びと生きていけるのだらうとも思います。学校でも、
評価のあり方ともに、定期テストのあり方も考えるべきかもしれま
せん。

しかし一方で、評価されない人生があり得るのかと言え、それ
は難しいと思います。例えば、進学、就職、そして仕事に就いてか
らも常に評価はつきまといま。人を好きになったり人から気に入
られたり、結婚相手を決めるのだから、お互いに相手进行评估した結
果です。

つまり、評価する評価されるということは、人と関わり、他人と
コミュニケーションをとって生きていく上で、避けて通れません。
一人で生きていくことなど不可能な人生に、評価はいつでもどこに
でも立ちはだかります。

ただ、評価が正当な形だということを前提として、評価に対する
ストレスやプレッシャーはだれだって極力避けたいものです。では、
どうすればいいのか。結局、実力をつけるしか方法はないのです。
だから勉強しろと。

足の遅い私は、徒競走でスタートラインにつくのが本当に嫌でし
た。ドキドキするのが堪えられませんでした。それはなぜか。
同じラインに並んだ他の人間よりも自分が速いという自信がないか
らです。

でも、ピストルがなったらドキドキは消えます。他人と比べるこ
とを忘れたらひたすら全力でゴールに向かえば、自分は報われると
信じるからです。